鶴岡市総合計画審議会
第２回産業専門委員会

平成３０年５月３０日
午後３時～
市役所３階　委員会室

次　　第

１　開　　会

２　あ い さ つ

３　説　　明
(1)「これからの１０年で鶴岡市のまちづくりに重視したい着眼点」について

４　協　　議
(1) 着眼点に対する施策の方向について

(2)その他

５　閉　　会

総合計画審議会　産業専門委員会
委員名簿

阿部（あべ）　公和（きみかず）	鶴岡市観光連盟　事業企画委員長
五十嵐（いからし）　一雄（かずお）	鶴岡市認定農業者会議　会長
石原（いしはら）　和香子（わかこ）	荘内神社　権禰宜
伊藤（いとう）　久美（くみ）	まるい食品株式会社　代表取締役社長
小沢（おざわ）　亙（わたる）	山形大学農学部　やまがたフィールド科学センター長
帯谷（おびや）　伸一（しんいち）	鶴岡東工業団地連絡協議会　会長
川上（かわかみ）　竜介（りゅうすけ）	鶴岡商工会議所青年部　会長
佐藤（さとう）　茂春（しげはる）	JA 庄内たがわ　営農販売部長
鈴木（すずき）　伸之助（しんのすけ）	温海町森林組合　参事
土岐（とき）　彰（あきら）	出羽三山精進料理プロジェクト　会長
難波（なんば）　裕朋（ひろとも）	出羽商工会　青年部長
西村（にしむら）　盛（さかり）	山形県漁業協同組合　参事
松田（まつた）　博美（ひろみ）	中心商店街のにぎわい創出に向けた研究会
三浦（みうら）　克之（かつゆき）	庄内赤川土地改良区　事務局長
宮守（みやもり）　徳弘（とくひろ）	JA 鶴岡　園芸部長

（五十音順　敬称略）

資 料 1

これからの１０年で鶴岡市のまちづくりに重視したい着眼点に対する各専門委員会及び地域振興懇談会での協議について

１．第２回企画専門委員会（4 月 26 日）の報告

（１）まちづくりの重視すべき着眼点

企画専門委員会では次期総合計画基本構想につながる「まちづくりの基本方針」・「基本政策」・「本市の主要な課題」の検討のほか、各専門委員会の「施策の方向」の取りまとめに生かすため、これからの１０年で鶴岡市のまちづくりに重視したい着眼点（別紙）を各専門分野での議論の切り口としてまとめました。

この着眼点の作成にあたっては、①情勢の変化　②市民ワークショップ参加者の意見　③総合計画審議会・各専門委員会の意見等を踏まえて作成しています。

（２）目標の設定

また、企画専門委員会では前回計画が計画期間内での計画内容の達成状況が確認しづらいことから、具体的な目標を設定し、後年に達成の検証ができるようにするべきと考えます。

２．各専門委員会及び地域振興懇談会での協議事項

（１）着眼点に対する各委員の意見集約

各専門委員会及び地域振興懇談会においては、担当の分野ごとに企画専門委員会がまとめた着眼点を踏まえ、着眼点ごとに現状・課題、施策の方向性について委員それぞれの識見からご意見をお願いします。

なお、着眼点については、各専門委員会で絞って重点的に話をしても構いませんし、また、お示しした以外に新たな着眼点を加えてご議論いただいても構いません。

（２）分野別の施策への反映

頂戴したご意見については、事務局において整理をし、総合計画分野別の施策の骨子（施策の方向性〔節〕、主な施策〔細節〕）に反映をいたします。

（別紙）

これからの１０年で鶴岡市のまちづくりに重視したい着眼点

１. 挑戦でき、人をひきつけ投資を呼び込める環境の整備

［文化や伝統など確立されたものを大切にしつつ、新しいことに挑戦ができる環境、人を惹きつけ投資を呼び込める環境が発展につながる］

２. 人づくりによる人材の確保

［郷土愛を育てることで定着を図りながら、魅力ある教育の実践がより多くの人材の確保につながる］

３. 交流人口を増やす施策の実施

［様々な人の受入れを進めるとともに、あらゆる施策で市民の満足を高め、他所にいかなくてもすむ生活を実現すること、交流人口を増やすことが人口減少社会の対応につながる］

４. 若者・子育て世代、高齢者、障害者に配慮し、誰もが活躍できる地域社会の構築

［若者、子育て世代に選ばれるまちを目指すとともに、高齢者、障害者に優しく、誰もが活躍できる社会の構築が地域の発展につながる］

５. 内的豊かさを重視し豊かな自然と歴史、文化を伝承

［精神的な豊かさの実現を見直し、特有の自然、文化、歴史を大切にすることが地域の価値を高め、発展につながる］

６. 「循環」をキーワードとして重視

［人やエネルギーなどの循環はもちろん、あらゆる施策で循環を意識することで円滑な社会の発展につながる］

７. 対応から本格的国際都市へのシフト

［地方都市においてはグローバル化、国際化への対応にとどまらず、より本格的な国際化に踏み込むことが創造的な社会づくりにつながる］

８. コンパクト＋ネットワークによる自立分散型社会の実現

［コンパクトなまちづくりを進め中心市街地の空洞化の防止をはかるとともに地域の個性を活かすためネットワークの構築をはかることが自立分散型のまちづくりにつながる］

９. オンリーワンを目指すプロジェクトの実施

［個性を重視し、質の高い未来志向のプロジェクトを実施することが具体的で市民にわかりやすい計画づくりにつながる］

資 料 2

これからの１０年で鶴岡市のまちづくりに重視したい着眼点に対する産業専門委員会での協議・意見

項　目　１．挑戦でき、人をひきつけ投資を呼び込める環境の整備	文化や伝統など確立されたものを大切にしつつ、新しいことに挑戦ができる環境、人を惹きつけ投資を呼び込める環境が発展につながる
現状課題・施策の方向	着眼点や現状課題・施策に対するご意見
[農業] ①（新規就農者の受入れ環境の整備） ・農業に関心が高い移住者（ＩターンやＵターン）の受入れは、新たな農業の担い手の確保につながるが、２８年度のＵターン就農者は、９名である。 ・移住者を受入れるには、鶴岡の農業の魅力を発信し移住者を鶴岡に呼び込むための仕組みや農地や機械等の経営基盤を持たない新規就農者に対する支援など環境整備が必要である。 ②（農業の法人経営の促進） ・法人、団体等の農業経営体は増加しているが、いわゆる枝番法人も多く、企業的な経営となっていない実態もみられる。 ・農業法人は、経営地域農業を支える担い手のひとつであり、経営者としての意識改革の促進や異業種からの参入なども含め、法人経営を行う経営体を増していく取組みが必要である。 ③（農商工観連携による多様な人材や企業参入の推進） ・本市は恵まれた農林水産資源を有し、豊富な知識と経験、高い生産技術を持ち合わせた農業者がいる一方、こうした資源を生かした高付加価値化の取り組みが少ない。 ・農商工観の連携により農林水産資源の高付加価値を図り、新たな地域ビジネスを創出する取組みが必要である。 ④（ほ場の整備） ・ほ場区画が小さく水路が老朽化している地域では、効率的で競争力の高い農業経営が困難となっている。 ・作業効率の向上や高収益作物の導入によって、企業的経営と新規参入を促すため、大区画化や水田畑地化の必要性が高まっているが、予算的制約等により整備に長期間を要している。 **[林業]** ①（経営基盤の強化） ・収益性の高い優良材の需要が低迷している一方で、木質バイオマス発電や集成材原料となる低質材の需要が拡大し、供給が対応できていない。 ・地域内に地元産材を利用する企業の参入や投資を促進するため、伐採～再造林のサイクルが上手く機能し、木材需要に対し安定供給ができる仕組みづくりが必要である。 **[水産]**	
[商工] ①起業や創業に対する支援のほか、ビジネスプランコンテストによるマインド創出や起業家精神の育成が必要である。 ②新分野、新事業進出や海外取引の拡大、企業連携や産学連携による付加価値創出など、企業の成長力強化が重要である。 ③企業の新規立地や新たな設備投資を呼び込むにあたり、インフラ整備や、新たな拡張用地の確保が必要である。 ④ユネスコ食文化創造都市認定を効果的に活用した食品産業の振興が必要である。 **[観光]**	

これからの１０年で鶴岡市のまちづくりに重視したい着眼点に対する産業専門委員会での協議・意見

項　目　２．人づくりによる人材の確保	**郷土愛を育てることで定着を図りながら、魅力ある教育の実践がより多くの人材の確保につながる**
現状課題・施策の方向	着眼点や現状課題・施策に対するご意見
[農業] ①（リーダー的農業者の育成） ・新規就農者は、年平均は約 24 名で、市全体としては増加傾向ではあるが、中山間地域の朝日、温海地域では、それぞれ１名程度と深刻な状況である。 ・地域農業のリーダーとなりうる経営マインドを持った後継者の育成が求められている。 **[林業]** **[水産]** ①（担い手の確保） ・漁業者数の減少や高齢化が進むなか、30～40 代の若手漁業者が年間漁獲額の上位に入るなど、地域漁業の牽引役として期待されている。 ・地域水産業を牽引し、リーダーとなる担い手の育成・確保に向けた支援制度の拡充が必要である。	
[商工] ①市内の中小企業及び小規模事業所では、後継者、担い手不足による事業承継が進んでおらず、廃業の増加が懸念される。 ②地元企業の人手不足が深刻な状況にあり、鶴岡市での就職を希望する県外在住者と地元企業とのマッチングを継続的に取組む必要がある。 ③中高生、高専、大学生等の若者やその保護者の地元企業の認知度が低く、企業説明会や企業見学等を通じて、優れた地元企業の周知拡大を図り、地元就職につなげる取組みが必要である。 ④就職内定率が高い一方で、就職先のミスマッチによる早期離職も増えており、早い時期からの職業観・職業意識の醸成と就職後の定着率向上が必要である。 ⑤地域産業の基盤である産業人材を育成するために、企業と連携した実践的な職業教育を充実させることが必要である。 **[観光]** ①観光分野は、3K イメージなどもあり求職者が少なく、ニーズへの対応、後継者問題等で深刻さが増している。 ②観光事業者間及び行政との連携・調整等を担い、観光産業を牽引する高度専門人材が求められている。	

これからの１０年で鶴岡市のまちづくりに重視したい着眼点に対する産業専門委員会での協議・意見

項　目　３．交流人口を増やす施策の実施	様々な人の受入れを進めるとともに、あらゆる施策で市民の満足を高め、他所にいかなくてもすむ生活を実現すること、交流人口を増やすことが人口減少社会の対応につながる
現状課題・施策の方向	着眼点や現状課題・施策に対するご意見
[農業] ①（観光農業の振興） ・観光農園や農家民宿、農家レストランなどは、農業を活かした貴重な観光資源となりうるが、そのポテンシャルを生かしきれていない。 ・新規に取り組む農業者に対しては、初期投資のリスクを軽減する支援が必要であり、開設後も、農業者だけで客を呼び込むことは難しいことから、集客方法などの経営戦略について、観光関連団体等とも連携した仕組みが必要である。 **[林業]** **[水産]** ①（ツーリズムの推進） ・従来型の団体旅行や修学旅行などから、個人・小グループの旅行やテーマ性の強い目的型の観光需要が高まってきており、インバウンドも視野に入れる必要がある。 ・漁労体験や加工体験、競りの見学、釣果の加工提供、民泊（民宿）の活性化など、漁村地域の魅力向上を図るとともに、加茂水族館や日本遺産、食文化創造都市など、市の強みを活用した仕掛け作りが必要である。	
[商工] ①広域的な企業活動の活性化に応じた受け入れ、インフラ等への整備が必要である。（交通、ホテル、ビジネスサポート産業等） ②中心市街地、中心商店街において賑わい創出・交流人口増を目的としたイベント等（ナイトバザール、寒だら祭り等）を実施しているが、人材不足、実施主体の高齢化が課題となっている。 ③空き家・空き地の増加など、中心市街地では空洞化が進み、まちの活力が低下している。 ④ＵＩＪターン者、若者をまちなかに取り込み、居住の場、活動の場、交流の場としての中心市街地の利用を促進していく必要がある。 **[観光]** ①「鶴岡」に対する認識度が県内・隣県他市に比べ著しく低く、観光ブランドの構築が進んでいない。 ②イベントを中心とした行き当たりばったり型の取組みが中心で、戦略的・戦術的な観光施策の推進が求められている。 ③新潟県･庄内エリア DC を好機と捉え､観光による地域づくりにつながる地域資源の磨き上げ、情報発信、地域に経済効果が波及する仕組みづくりが必要である。 ④鶴岡までの１次交通（空路、高速道・鉄道等)、域内での２次交通いずれも不十分であり、他観光地との競争力低下につながっている。 ⑤来訪者の満足感を高めリピーター、移住・定住者の増につなげ、外部からの人・財による地域の活性化が求められている。	

これからの１０年で鶴岡市のまちづくりに重視したい着眼点に対する産業専門委員会での協議・意見

項　目　４．若者・子育て世代、高齢者、障害者に配慮し、誰もが活躍できる地域社会の構築	**若者、子育て世代に選ばれるまちを目指すとともに、高齢者、障害者に優しく、誰もが活躍できる社会の構築が地域の発展につながる**
現状課題・施策の方向	着眼点や現状課題・施策に対するご意見
[農業] ①（多様な担い手） ・園芸や果樹の生産には、繁忙期や面積拡大の際に「農業労働力」の確保が必要である。 ・農業による雇用確保の観点から子育て世代や高齢者などの活力を取り入れていく仕組み作りが必要である。 ②（農福連携） ・農業と福祉が連携した取組みは、あまり進んでいない。 ・農福連携を進めるため、障害者が働きやすい環境づくりやマッチングの仕組みが必要である。 **[林業]** **[水産]**	
[商工] ①若い女性が県外に多く流出している状況があり、出産や育児をしながらでも働きやすく活躍できる環境づくりが必要である。 ②高年齢者や障がい者の就労など多様なニーズに対応した就業環境づくりが必要である。 ③将来への不安が大きい非正規から正規社員への転換を推進し、雇用の安定と所得の向上を図る必要がある。 **[観光]** ①世界的な評価を受けている食文化、精神文化の良さを情報発信し、地域の魅力向上、ひいては来訪者増と、地域活性化に結び付けていく必要がある。 ②恵まれた温泉地を再評価し、入浴効果だけでなく、食、文化、自然環境などと結び付け、トータルな健康増進を提案するなど、温泉地としての差別化が求められる。	

これからの１０年で鶴岡市のまちづくりに重視したい着眼点に対する産業専門委員会での協議・意見

項　目　５．内的豊かさを重視し豊かな自然と歴史、文化を伝承	精神的な豊かさの実現を見直し、特有の自然、文化、歴史を大切にすることが地域の価値を高め、発展につながる
現状課題・施策の方向	着眼点や現状課題・施策に対するご意見
[農業] ①（在来作物の振興） ・だだちゃ豆、温海かぶをはじめとする在来作物が 60 種確認され、豊かな食文化の源泉となっている。特産品となっている品目、消滅が危惧される品目など、その状況は多様である。 ・在来作物は地域の貴重な資源として、個々の品目ごとに消費拡大策や生産振興策あるいは種子の保存などの戦略的な取組みが必要である。 ②（学校給食への地元野菜の利用促進） ・学校給食への鶴岡産野菜の利用を促進するため、利用率 50%を目標にして取組んでいるが、29 年度の利用率は約 38%となっている。 ・食文化を意識して、学校給食に安全安心な地元農産物を安定的に供給するための仕組みが必要である。 **[林業]** ①（伝統的焼畑文化の継承） ・近年、皆伐地の減少により、草薮に火入れをして焼畑を行うことが多くなり、森林資源の循環と切り離された形で行われている。 ・本市に伝わる焼畑文化の本来的な姿である「伐採～地拵えを兼ねた焼畑～再造林」の循環型生産システムに基づいた伝統農法の存続・拡大が必要である。 **[水産]**	
[商工] ①ユネスコ食文化創造都市認定を効果的に活用した食品産業の振興が必要である。（再掲） ②kibiso ブランドが定着しつつあるなど、今後、鶴岡の絹産業をけん引するための商品開発や販路拡大を促進する必要がある。 ③羽越しな布をはじめとする伝統的な産業を振興・継承していくため、従事者の確保や技術・技能の継承が必要である。 **[観光]**	

これからの１０年で鶴岡市のまちづくりに重視したい着眼点に対する産業専門委員会での協議・意見

項　目　６.「循環」をキーワードとして重視	人やエネルギーなどの循環はもちろん、あらゆる施策で循環を意識することで円滑な社会の発展につながる
現状課題・施策の方向	着眼点や現状課題・施策に対するご意見
[農業] ①（耕畜連携） ・後継者不足や高齢化により、畜産農家数、飼養頭羽数が減少しており、耕種農家が、畜産農家の堆肥で飼料作物を生産し、畜産農家がその飼料で家畜を育てる耕畜連携の維持が難しい。 ・自給飼料の有効活用や JAS 法による認定機関である鶴岡市の強みを活かして堆肥を使った有機、特別栽培など環境に配慮した環境保全型農業を拡大に向けた畜産農家と耕種農家との連携が必要である。 ②（地産地消） ・市内に 10 数カ所ある産直施設や地元野菜コーナーを設けているスーパー小売店も多く、地場産野菜を購入しやすい環境づくりが進んできている。 ・地産地消は、同じ地域住む生産者と消費者との間での循環であり、今後、さらに利用拡大を進めるために、新たな仕組みが必要である。 ③（スマートテロワール） ・畑作と畜産の連携を図り、農畜産物を生産する耕畜連携は、既に実施されている。 ・さらに加工業者と一体となって厳選素材を利用した加工食品を製造し（農工一体）、地域内で販売・消費することで（地産地消）、全てを地域内で完結できる循環型の経済圏と地域内食料自給圏（スマートテロワール）について検証し、地域内での普及について検討が必要である。 **[林業]** ①（経営基盤の強化）　［再掲］ ・収益性の高い優良材の需要が低迷している一方で、木質バイオマス発電や集成材原料となる低質材の需要が拡大し、供給が対応できていない。 ・地域内に地元産材を利用する企業の参入や投資を促進するため、伐採～再造林のサイクルが上手く機能し、木材需要に対し安定供給ができる仕組みづくりが必要である。 ②（伝統的焼畑文化の継承）　［再掲］ ・近年、皆伐地の減少により、草薮に火入れをして焼畑を行うことが多くなり、森林資源の循環と切り離された形で行われている。 ・本市に伝わる焼畑文化の本来的な姿である「伐採～地拵えを兼ねた焼畑～再造林」の循環型生産システムに基づいた伝統農法の存続・拡大が必要である。 **[水産]**	
[商工] ①最終製品製造企業が少ないため、地域内循環型の産業構造を構築しにくい状況にある。 ②地元産品の消費や調達などを促進し、大手企業の事業再編や景気低迷等、外的要因の影響を強く受ける産業構造からの脱却が必要である。 **[観光]**	

これからの１０年で鶴岡市のまちづくりに重視したい着眼点に対する産業専門委員会での協議・意見

項　目　７．対応から本格的国際都市へのシフト	地方都市においてはグローバル化、国際化への対応にとどまらず、より本格的な国際化に踏み込むことが創造的な社会づくりにつながる
現状課題・施策の方向	着眼点や現状課題・施策に対するご意見
[農業] ①（農産物等の輸出） ・海外での市場調査や販売促進の取組みとして、庄内柿やメロンなどの青果物やその加工品を海外へ輸出されているが、その後の継続的な取引には繋がっていない状況である。 ・例えば、米は香港、中国を輸出先に想定するなど、輸出に適した品目や輸出相手先などの絞り込みを行い、輸出を推進するために戦略的な取組みが必要である。 ②（ＧＡＰへの取組み） ・農業の国際競争力の強化を図るためＧＡＰ認証などが求められているが、国際水準ＧＡＰが３件にとどまっている。 ・制度のメリットを理解を促すなど、ＧＡＰ認証の拡大を図るための取組みが必要である。 ③（外国人労働力の受け入れ） ・労働力不足が顕在化しているが、農業分野において、外国人を受け入れている事例はみられない。 ・将来的な労働力不足への対策のひとつとして、今後、外国人実習生制度などによる外国労働力の受け入れについての検討が必要である。 **[林業]** **[水産]**	
[商工] ①ビジネスや観光での外国人の来鶴が増加しているなか、コミュニケーションや情報提供の利便性確保への対応が遅れている。 ②研究者や技術者のほか、人材不足に対応した労働者等、海外からの流入が増加傾向にあり、言語、風習、生活環境等の違いに対応した体制づくりが必要である。 **[観光]** ①インバウンド客の受入にあたっては、知名度のほか、言語、通信環境、宗教・文化的習慣などへの対応の不十分さがネックとなっている。	

これからの１０年で鶴岡市のまちづくりに重視したい着眼点に対する産業専門委員会での協議・意見

項　目　８．コンパクト＋ネットワークによる自立分散型社会の実現	コンパクトなまちづくりを進め中心市街地の空洞化の防止をはかるとともに地域の個性を活かすためネットワークの構築をはかることが自立分散型のまちづくりにつながる
現状課題・施策の方向	着眼点や現状課題・施策に対するご意見
［農業］ **［林業］** **［水産］**	
［商工］ ①中心商店街は高齢化と担い手不足により組織自体の弱体化が顕著だが、組織・団体の成り立ちの違いもあり、連携・ネットワーク化が進んでいない。 ②中心市街地で増加している「空き地」や低・未利用地の有効活用と魅力ある商店街づくりを進める必要がある。 ③高齢者、障がい者などの買い物が困難な方や、商店等が立地しない地域等での生活利便を確保するため、地元事業者によるサービス提供体制の強化が必要である。 **［観光］**	

これからの１０年で鶴岡市のまちづくりに重視したい着眼点に対する産業専門委員会での協議・意見

項　目　９．オンリーワンを目指すプロジェクトの実施	個性を重視し、質の高い未来志向のプロジェクトを実施することが具体的で市民にわかりやすい計画づくりにつながる
現状課題・施策の方向	着眼点や現状課題・施策に対するご意見
[農業] ①（ユネスコ食文化創造都市、食と農の景勝地） ・ユネスコ食文化創造都市や食と農の景勝地に認定されているが、その強みを農業分野で活かしきれていない。 ・ユネスコ食文化創造都市、食と農の景勝地に認定されている本市の特徴を活かし、本市農業の付加価値を高めていく取組みが必要である。 ②（スマートテロワール）　［再掲］ ・畑作と畜産の連携を図り、農畜産物を生産する耕畜連携は、既に実施されている。 ・さらに加工業者と一体となって厳選素材を利用した加工食品を製造し（農工一体）、地域内で販売・消費することで（地産地消）、全てを地域内で完結できる循環型の経済圏と地域内食料自給圏（スマートテロワール）について検証し、地域内での普及について検討が必要である。 ③（絹産業の一貫工程の維持存続に向けた養蚕の振興） ・サムライゆかりのシルクとして日本遺産に登録された絹産業の一貫工程のうち、養蚕業が途絶えている現状である。 ・採算性をふまえた養蚕業の再開の検討が必要である。 **[林業]** **[水産]** ①（ブランドの確立） ・漁業者自らの取組みの成果により、トラフグや庄内おばこサワラなどは高品質魚として中央市場からも高評価され、ブランド化されている。 ・今後は、未利用魚の商品化や食文化創造都市と連携した新たな消費拡大の取り組みが必要である。	
[商工] ①新分野、新事業進出や海外取引の拡大、企業連携や産学連携による付加価値創出など、企業の成長力強化が重要である。（再掲） ②各商店街単体でのイベント実施だけでなく、多様な団体や学生等との連携により、鶴岡発の取組み・事業・イベント等の企画などの創出が必要である。 **[観光]** ①ギネス認定クラゲ展示種類数世界一の加茂水族館が、これからも多くの方に受け入れられるよう、定期的なリニューアル等魅力の増進が必要である。	

これからの１０年で鶴岡市のまちづくりに重視したい着眼点に対する産業専門委員会での協議・意見

項　目	（提示された着眼点以外に重視したい項目がありましたら、記載ください。）
現状課題・施策の方向	着眼点や現状課題・施策に対するご意見
［農業］ ［林業］ ［水産］	
［商工］ ［観光］	